

目 次

長野市の鉄道のあゆみ

鉄道史学会々員 小林宇一郎 …… 7

人の力……………	12
動物の力……………	14
人力車……………	18
かご……………	20
自転車とリヤカー……………	22
和船……………	24
黒船……………	28
汽車……………	30
長野の交通……………	36
資料名及び提供者一覧表……………	44

凡 例

1. 本図録は、当館第14回特別企画展「のりもの今昔」の展示概説のため作成しました。
2. 紙面の都合で、展示資料の全部は収録できませんでしたが、資料提供等御協力いただいた方々にお詫びし、御協力を感謝します。
3. 本書の配列は展示の順序とは一致しません。
4. 本書巻頭に、鉄道史学会々員小林宇一郎先生の玉稿を賜りました。短期間での執筆のお願いに快諾された先生の御好意に感謝いたします。
5. 資料については巻末に掲載しましたが、貴重な資料を御提供されたり御指導いただいた各位に深く感謝申し上げます。
6. 期間中、都合により展示資料を変更することがあります。
7. 図版解説末尾の〔 〕中の番号は、巻末の資料名及び提供者一覧表の資料の番号です。

長野市立博物館開館5周年にあたって

長野市長 塚田 佐

長野市は昭和41年10月16日に新市誕生以来20年の歳月を送り、34万人の市民のみなさんとともに誇れる都市づくりに力を合わせているところであります。

この間、昭和40年代は合併した全地域の環境を整備し市内どこの地域にあっても快適な生活をおくれるような努力を重ねて来ました。そして、昭和50年代にあっては市民が力を合せ、心豊かな福祉都市をめざすとともに、社会教育の場としての社会教育施設の充実を計り、長野市の特性を自覚するなかから、市民による市民のまちづくりの基礎を培う施策を進められて来ました。

その中であって、今日開館満5年の秋を迎えた長野市立博物館については、10年間になんなんとする長い準備期間を経て創館した市民待望の博物館でした。

完成を喜び、たくさんの市民のみなさんが押しかけた開館記念式典の日は、ついこのごろのように思い出されますが、この間40万人を越す見学のみなさんでにぎわったことは御同慶にたえません。今後もこの博物館を身近かな市民の教育の場として育ててくださることを期待してやみません。

第14回特別企画展

のりもの今昔開催にあたって

長野市立博物館長 掛川 一夫

当館は、開館以来満5年の歳月を重ね、この間、13回にわたり企画展示を実施し、常設展示の概観性を補うとともに、来館者の御要望にそうために、特定の部門についての学芸担当者の研究を進め、その結果を発表してきました。今回は、数えて14回目の企画展示「のりもの今昔」を開催いたしますが、これも、今までの来館者の御希望により、より身近かなものに対しての関心の深さを見越しての主題の決定であります。

2年前、街道と旅を主題として江戸時代までの日本での旅人の様子を展示いたしました。その折の御希望の多くは、現代までの続編への期待でした。主題が現在に近く設定すればするほど範囲は広がり、対象となる資料も膨大となるため、その選定に苦慮したところですが今回は黒船の来航以来西洋文明の影響によって、近代的な状況に発展してゆく様子を見ていただくことにいたしました。

この間、文化庁の御指導はじめ、通信博物館や多くの博物館、社寺及び研究者の御協力を賜りました。ここに感謝申し上げるとともに、御来館各位の御指導を賜りますこと念じて止みません。